

## 第4回新潟人間生活学会

日時 平成25年7月21日（日） 午後1～5時

会場 新潟県立大学 1257講義室（ポスターセッション）  
1313講義室（企画セッション）

**\*大会参加費無料**

第1部 ポスターセッション（午後1時～2時）

※最初の30分間に発表代表者による質疑応答があります。

第2部 企画セッション（午後2時15分～5時）

### テーマ「子どもの生きづらさと支援のあり方」

保育や福祉、健康、栄養等の現場で働いている方々、子育て中の皆さん、育や食とかかわる専門職をめざす学生等とともに、子どもの虐待、発達障がいをはじめさまざまな生きづらさについて、どのようにとらえ、向き合い、寄り添い、支援していくことが大切であるのか、学び合う場とする。

司会 健康栄養学科教授 田邊直仁

★ 学会長挨拶 人間生活学部長 大桃伸一

I. 特別講演（14:20～15:30）

座長 戸潤幸夫（子ども学科教授）

**演題「子どもの生きづらさと支援のあり方」**

講師 東條 恵（新潟県はまぐみ小児療育センター所長）

II. パネルディスカッション（15:45～16:50）

コーディネーター 齋藤 裕（子ども学科教授）

パネリスト

川村雅子（新潟市社会福祉協議会 子育てなんでも相談センターきらきら）

宮嶋扶美子（新潟市黒埼子育て支援センターほほえみ センター長）

助言者

東條 恵（新潟県はまぐみ小児療育センター所長）

★ ポスター賞発表・贈呈 人間生活学部長 大桃伸一

★ 閉会の挨拶 健康栄養学科教授 佐藤恵美子

問い合わせ先 新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科  
田邊直仁 TEL025-368-8240 E-mail tanabe@unii.ac.jp

## ★ 講師及びパネリストのプロフィール

### 東條 恵氏

新潟県はまぐみ小児療育センター 所長  
小児科、小児神経科、児童精神科の一部を担う。  
略歴：県立中央病院、大学病院、国立療養所新潟病院重症児病棟勤務。  
昭和63年 新潟県はまぐみ小児療育センターに勤務。現在に至る。

著書：『発達障害ガイドブック 自閉症スペクトル・広汎性発達障害・高機能自閉症・アスペルガー症候群・ADHD・学習障害 保護者と保育士・教師・保健師・医師のために』（考古堂書店）  
『アスペルガー症候群・自閉症のあなたへ』（考古堂書店）  
『知っておきたい発達障がいキーワード』（考古堂書店）  
『子育て、親育ち とどけ！ 親と子への応援歌』（考古堂書店）

### 川村 雅子さん

社会福祉士  
新潟市社会福祉協議会、子育てなんでも相談センターきらきら コーディネーター  
略歴：平成14年 新潟県女性福祉相談所勤務 平成17年 新潟県児童相談所勤務  
平成19年 新潟市児童相談所勤務平成23年 現職  
メッセージ：「子育て支援は親支援！！」をモットーに日々子育て家族の相談に耳を傾けています。相談を受けるなかで、切り口は育児方法や発育の心配でも、ゆっくと話を聴いていくと、親自身の育ちや夫婦家族、周囲の人間関係の悩みが背景にあることが分かってきます。相談者は子育て真っ最中のお母さんたちが多いですが、お一人おひとりがみんな力を持っています。お母さんたちが自分の力で課題を解決したり、方向性を見つけられるよう、一緒に悩み考え寄り添っていきたいと思っています。

### 宮嶋 扶美子さん

新潟市黒崎子育て支援センターほほえみ センター長  
核家族化の進行などにより、子育ての不安感や孤立感を持つ保護者が増加していること等から、地域子育て支援センター業務に取り組み中。同時に発達支援教室‘あのね’のスタッフとして、言葉や社会性等に発達の遅れが見られる乳幼児の親子に対し、親子遊びを通して子どもの発達を支援している。  
略歴：新潟市の公立保育所において40年間保育士として保育現場で保育の仕事に携わる（クラス担任24年、主任保育士6年、園長として10年間4ヶ所の保育園に勤務）  
平成24年3月末 定年退職後、平成24年4月から再任用職員として現職

## ★ 学会会場



JR新潟駅より  
白新線 JR大形駅下車（所要時間約12分）  
、徒歩約15分

バスで  
「万代シティバスセンター」または「明石1丁目」（新潟中央郵便局前）バス停から下記のバスへ乗車（所要時間約25分）～  
「県立大学前」バス停下車・徒歩5分